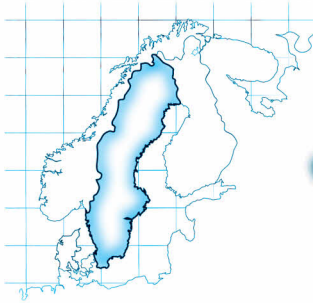
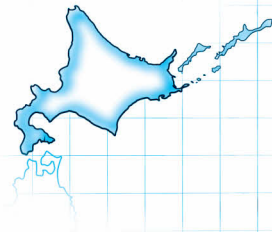




ペリフェリ ⑦



傲慢と信頼

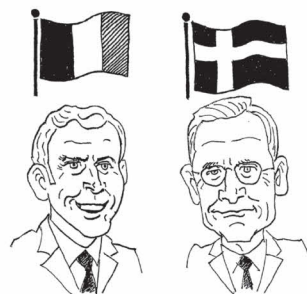
日本赤十字社 常任理事 渡邊 芳樹

北辺の民スウェーデン人は社会的にはシャイだが質実剛健で公平公正。一般に男性は優しく、女性はやさしくしている。

一方で自らを特別な国民であると思っていて超大国をも説得しようとする傲慢でしたたかな自信家でもある。米国大統領と密かに通じながら国際社会で公然とベトナム戦争反対運動を展開したパルメ首相(社民党)を思い起こす。

今年1月クリスティン首相(保守党)がマクロン仏大統領を自国に迎えるに当たって公開したいかにもスウェーデン人らしい歓迎の辞を紹介したい。

冒頭から「先ずスウェーデンの物事や行動様式を紹介することを許し願う」、「スウェーデンでは天候が悪いのではなく服装が悪いのだという言葉がある。雪に不満を述べようものならその言葉を聞くことになる」とする。スウェーデンの服装は頑丈で零下20度以下の冬にも強い。仏の洒落た服装では大変ということだ。



次に「大事なことをもう一つ。それはフイーカ。もし貴方が椅子に座りコーヒーを飲みシナモンロールを口にするフイーカの機会を飛び越して物事を先に進めたら、深刻な結果を招くでしょう」出会ひの際のフイーカは良い習慣だが、ここまで言うかと正直驚く。

更に「最後に一言。私たちは列に並ぶことが大好きだ。それを見無視して割り込むと私たちはひどく怒る。その場では押し黙っていても、後で怒りの手紙を送る。公衆の面前でそうしたことをしてはいけない」スウェーデン人を馬鹿にするなどという警告である。

確かにスウェーデン人の秩序感覚は立派である。車線変更に苦勞する必要はない。隣車線の車は減速しスペースを空けてくれる。列に並ぶことを私たち日本人は物資不足の国を思い起こす。しかし豊かなスウェーデンでは列に並ぶことで自分の権利を確認し安心する。訪日経験のある者は東京の地下鉄で乗客が整然と並び電車に乗り込む姿に文明を感じると高く評価する。列に並ぶ安心を乱す者は許さないのがスウェーデン人ということか。

歓迎の挨拶は「これで大統領はスウェーデン訪問の用意が出来たことでしょう」と締め括る。欧州の盟友を迎えての異様な挨拶だ。国際社会では時に傲慢で独善的と批判されるスウェーデンだが信頼する盟友に対する親しみが込められている。

わが国の代表が同様の言葉で迎えらることはないが、私も合計6年余りの滞在で経験した愛すべき朴訥なユーモアである。